

知多市及び消防のあらまし

知多市は、愛知県知多半島の北西部に位置し、北は東海市、南は常滑市、東は東浦町と阿久比町に接し、西は伊勢湾に面し、全体として平坦な土地で、四季を通じて比較的温暖な気候に恵まれた住みやすい街です。

昭和30年に、八幡、岡田、旭の3町が合併して知多町となり、昭和37年から始められた名古屋南部臨海工業地帯の埋め立てにより大企業が進出し、工業化・都市化に伴い昭和45年9月1日に市制を施行して知多市になりました。昭和48年からの宅地開発により人口が急激に増加し、名古屋都市圏のベッドタウンとして発展してきました。

現在は、市民参加のまちづくりを都市像に掲げ、自然と調和した快適な生活環境の中で、“笑顔つながる いきいき 緑園都市”をめざしています。

消防体制は、消防本部、消防署、2出張所に消防職員109名（再任用4名）、石油コンビナート災害用特殊車両をはじめ消防車両28台を配置し、消防団は5分団、団員113名（女性団員15名）、消防車両10台で、消防団退団者で編成する消防団防災支援隊74名も配置しています。また、平成24年4月に知多広域消防指令センターを知多地域6消防本部で設置し、119番通報の受信や無線通信業務等を集約し共同運用を開始しました。

一方、都市の発展に伴って発生する各種災害に備え、自主防災組織、女性消防クラブ、少年消防クラブの推進を図り、市民と一体になった総合防災体制の確立をめざしています。

